

## FDガイド第1号 : 授業にピア活動を取り入れる

著者	伊藤 奈賀子
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/24998">http://hdl.handle.net/10232/24998</a>



# 授業にピア活動を取り入れる

教育センター高等教育研究開発部  
伊藤 奈賀子

【発行／2011年3月】

「ピア(peer)」とは仲間のことを意味します。学生同士の議論や協同での作業など、学生同士が学びあう活動が、授業におけるピア活動です。同じ授業を受ける仲間から受ける刺激は、学生の学びをより充実したものにします。しかし、話し合うよう指示しても、必ずしも活発に意見が交わされるわけではありません。活発な議論を促し、効果的なピア活動にするためには様々な配慮が必要です。

効果的なピア活動は、学生の学習意欲を高めます。本学で2011年1月に実施した調査(鹿児島大学共通教育における学習実態・学習成果に関する調査)でも、「ディスカッションを取り入れた双方向型の授業」や「グループワークが多い授業」が知識や能力の獲得に役立ったと考える学生の割合が高いという結果が出ています。教員による講義の重要性を認めたくえて、ピア活動の要素を取り入れることで、学生の能動的な学びを促していきましょう。

## 1 ピア活動の環境を整える

ピア活動では、学生同士が話したり、何かの作業をすることが増えます。その場合、机と椅子がすべて教壇の側に向かってような従来型の教室では活動しにくいこともあります。工夫次第でより良い活動は十分可能です。それでも、可能であれば以下のような環境がある教室だと効果的です。

- 机と椅子が可動式の教室を使う
- 互いに向き合うように座らせる
- 作業用の大きな机を準備する
- メモや発表用のホワイトボードをグループの数だけ配置する

## 2 ピア活動のルールを決める

ピア活動とは、学生同士が関わりあうものです。個々に授業を聞くのとは異なり、互いに影響を与え合います。良い影響が与えられれば、学習意欲や成果が向上します。しかし、良い影響を生み出すためには、学生の間に「他者の学びにかかわっている」との意識と責任感を持たせるためのルールが必要です。

- 遅刻や欠席をできるだけしない(どうしてもない場合には事前に伝えておく)
- 活動の時間を守る
- 意見は批判しても良いが、人格は絶対に攻撃しない
- 仲間の意見をしっかり聴く

1号

2号

3号

4号

5号

6号

7号

8号

9号

10号



### 3 ピア活動についての理解を促す

大学では、隣の学生が全くの初対面ということもあります。緊張感をほぐし、学生が積極的にピア活動に取り組めるよう動機づけを行っておくことが大切です。ピア活動に際しては、その意味について資料を示すなどして十分に説明し、学生自ら取り組む姿勢にしていく必要があります。

- 最初の授業で説明をし、質問も受け付ける
- 1回の授業のタイムスケジュールを示す
- 過去の授業におけるピア活動の成果を示す(プレゼンテーション資料、報告書など)
- 過去に授業を受けた先輩にアシスタントとして授業に入ってもらう

### 4 明確に指示をする

授業でピア活動を行う際には、いくつか注意点があります。そのひとつが「指示を明確にすること」です。指示があいまいなままでは、十分な成果を上げることはできません。学生が活動に取り組みやすいようにするためには、以下のような点を明らかにしておく必要があります。

- 話し合いのテーマをわかりやすい言葉で表現する: テーマがあいまいでは話し合いの内容もぼんやりしてしまう
- 話し合いの到達目標をはっきりさせる: 何を指して話し合えばよいかをはっきりさせる
- 各メンバーが話す時間を管理する: 特定のメンバーが場を独占することを防ぐ
- その時々すべきことが何かを意識させる: 自分から積極的に役割を見つけ出させる

### 5 クラス全体でピア活動の成果を共有する

ピア活動の成果をクラス全体で共有するとき、多く見られるのは他の学生の前での発表です。発表は、人前で話すことの訓練として、また効果的な伝え方を考えるためのきっかけにもなる重要な学びの場です。しかし、このやり方は、緊張しやすい学生には負担が多いことや、常に発表のプレッシャーを感じながらピア活動をしなければならないなどのデメリットもあります。学生の負担感をなるべく軽くしつつ、クラス全体で成果を共有するために、どのようなやり方があるでしょうか。

- ペアのメンバーを入れ替えて、前に話し合った内容について説明しあう
- グループを解体して新しいグループをつくり、前の議論を踏まえた発展的な議論をする
- ポスターセッションを行う
- レポートを書かせて報告書を作成し、読み合わせをする

### より深く知るための参考文献

- ◇杉江修治・関田一彦・安永悟・三宅なほみ(2004)『大学授業を活性化する方法』玉川大学出版部
- ◇エリザベス＝パークレイ、パトリシア＝クロス、クリア＝メジャー、安永悟監訳(2009)『協同学習の技法 ー大学教育の手引きー』ナカニシヤ出版
- ◇池田玲子・館岡洋子(2007)『ピア・ラーニング入門ー創造的な学びのデザインのためにー』ひつじ書房
- ◇小田隆治・杉原真晃編著(2010)『学生主体型授業の冒険ー自ら学び、自ら考える大学生を育むー』ナカニシヤ出版